

まちの守り人 「消防団」

わたしたちの命や財産を守るため、昼夜を問わず活動する消防団。自治区ごとに活動していた消防団は、ことしの4月に統合し、一丸となって消防活動に当たっています。ここでは、普段なかなかうかがい知ることができない消防団の活動にスポットを当てていきます。

新

しい年度がスタートした平成22年4月1日。各自治区の5つの消防団が一つになって発足した奥州市消防団（千葉昭道団長）の発団式が奥州市役所で行われました。会場となった講堂には、消防団の幹部団員や関係者ら約120人が集結。式典を通じて、新生消防団の誕生を祝いました。初めに、消防団の統監を務め

る小沢昌記市長が、千葉団長に新しい団旗を授与。整然と並んだ団員たちは、団旗に向かって敬礼し、気持ちを新たにしました。その後、各分団にも千葉団長から分団旗が手渡され、分団長が引き締まった表情で分団旗を受け取りました。小沢市長は「旧市町村時代から受け継いできた消防魂を新しい団旗に注入してほしい。一致

VOLUNTEER
FIRE CORPS



団結して、市民の生命や財産の安全を支え、誇りを持って奮闘することを願う」とあいさつ。引き続き、千葉団長は「統合しても団員の精神、理念は変わることはない。団員の友愛と相互扶助を念頭に活動することが大切。市民に安心と安全を与えるという初心を忘れずに、地域住民の信頼に応えていこう」と述べ、力を合わせ活動していくことを誓いました。

各

自治区の消防団は、18年2月の市町村合併後も組織を維持し、それぞれ活動を行ってきました。これは、市町村合併の際に、「20年度をめどに統合する」という取り決めをしていたためです。しかし、たくさんの団員たちが築き上げてきた消防団の統合は簡

単ではありません。「予定どおり統合を」という意見のほかに「統合は時期尚早」という声もあったため、統合を延期することになりました。

その間、各区の消防団の幹部が統合へ向けた協議を行い、新たな組織を編成。団本部には、団長以下、5人の副団長と、本部長、副本部長などを置きました。一方、分団組織は、組織が大きくなっても活動が低下することがないよう統合前と同じ36の分団を維持。水沢が第1～10分団、江刺が第11～20分団、前沢が第21～26分団、胆沢が第27～31分団、衣川が第32～36分団という編成になりました。こうして、36分団、約2000人の団員を有する、県内でも有数規模の消防団が誕生したのです。



1各地区から集まった消防団の幹部が発団式に臨む 2千葉団長から各分団に分団旗が手渡される 3真新しい分団旗を横に置き、背筋を伸ばす団幹部 4ラッパ隊員によるラッパの演奏。式典の節目、節目で高らかに鳴り響いた